

# REAL PUBLICITY FOR ARTS



TOA 音楽と教育の  
意識調査 2009



April 2009

### Project Real Publicity for Arts

主催 || TOA 株式会社 社会貢献・メセナ担当：吉村真也

親世代への意識調査から、音楽と教育の関係性を探る取り組みも、3年目を迎えました。初年度の調査では、保護者の7割以上が学校の音楽教育によって「子ども達が音楽を好きになること」に期待していることが明らかになりました。その理由を探るため、続く2008年度では、科目を学ぶことによって得られる“知識以外の力”を調査。「生きる力」を育む科目として上位を占めたのは、国語、外国語などの語学科目と並び、芸術科目である「音楽」でした。子ども達の学力低下が騒がれ、基礎知識・技能の習得の必要性がクローズアップされがちですが、子どもたちの「心の豊かさ」「コミュニケーション力」「表現する力」を育む芸術科目が、学校教育において果たす役割が大きいことを、調査結果は示唆しているのではないのでしょうか。

昨年の調査終了後、世界経済は“100年に一度の不況”と言われる急激な変化に直面しました。働く環境そのものが変化し、これまでの社会的価値観や社会構造までもが大きく揺らぐ中、子どもを持つ保護者の意識はどう変化したのでしょうか。この点を探るため、今年も「生きる力」の調査を継続して行い、昨年との比較を試みました。

加えて、新しく「生活の中の音楽」についても調査を行いました。人はどんな感情の時に音楽を聴き、どんな場面で歌を歌うのか。また、幼少期の親子間のコミュニケーションにおいて、音楽はどのように「活用」されているのかなど、人々の暮らしに密着した音楽のあり方を探ります。

過去の調査内容（2007年度、2008年度）は、  
下記 URL からダウンロード可能です。

<http://www.toa.co.jp/profile/research.htm>

## 目次 CONTENTS

- 02 TOA 音楽と教育の意識調査 2009 発行にあたり  
TOA 株式会社 || 吉村真也
- 03 TOA グループの社会貢献活動紹介
- 04 アンケート 調査結果
- 10 共感する力を育む ～調査結果によせて～  
NPO 法人子どもとアーティストの出会い || 理事長：井手上春香
- 11 募集のご案内 || TOA Music Workshop 2009
- 12 TOA Music Workshop の歩み

## 音楽と教育の意識調査 2009 || 調査概要

**調査対象** || 全国の男女 500 名 | 男性 250 名、女性 250 名  
20代：99名 | 30代：103名 | 40代：99名 | 50代：102名 | 60代：97名  
**下の子どもの年代と性別** || 未就学男子：43名 | 未就学女子：39名 |  
小学校男子 23名 | 小学校女子 21名 | 中学校男子 13名 | 中学校女子 8名 |  
高校男子 13名 | 高校女子 10名 | その他 154名

**調査方法** || Web 調査

**調査期間** || 2009年3月24日 | 火 | ～3月27日 | 金 |

本調査は、社会学の専門家によるアンケート項目の設計、  
また、子どもの教育と芸術に関する専門 NPO の監修のもと、各分野の  
専門スタッフにより客観的な視点から実施されています。

# TOA グループの社会貢献活動

—それぞれの世代に、それぞれのカタチで。「TOA Meet! Music! Concept」—

2007 年度の自社調査によると、保護者の約 8 割が「企業が学校教育の支援活動を行うこと」を「望ましい」と考えています。防犯、福祉など、あらゆる生活環境において「地域」の果たす役割が再認識されている昨今、地域の一員である企業に対しても、教育に相応の役割を果たすことが求められています。教育現場と手を取りあって、自社ならではの個性的な手法で教育に貢献することは、もはや企業の社会的責任だと言えます。

TOA グループは、業務用音響機器と映像機器の専門メーカーとして培ってきた技術や自社資源を有効活用し、自主企画として様々な音楽にまつわる社会貢献活動を展開。特に次世代育成活動に力を注ぎ、次代を担う子ども達に音楽の楽しさを伝え続けています。

子ども達の成長の過程には、それぞれの世代に、それぞれのカタチでの音楽との出会いがあります。TOA では、「TOA Meet! Music! Concept」と題し、子どもたちの成長にあわせた4つの音楽プログラムと、1つの調査プログラムを展開しています。

小中学生を対象とした「TOA Music Workshop」では、音楽との最初の出会、仲間とともに音楽に参加する喜びや楽しさを。中学生を対象にした「トライやる・ウィーク」シリーズでは、作品を創作し発表するという、音楽を創る喜びを。中高校生を対象にした「神戸 JAZZ」では、ステージスタッフなどの裏方も含めた音楽のプロと接し、音楽で生きる世界への扉を開きます。そして、専門学校生・大学生を対象とした「匠ワークショップ」では、プロの技を伝え、明日の音楽の担い手を育成します。

また、調査プログラム(本冊子)では、4つの音楽プログラムの社会的背景やニーズを探る目的で、「音楽と教育」に関わる親世代の意識を調査。結果は広く公表するとともに、自社企画の立案や、さらなる内容の充実に役立てています。

音楽と接することで、子ども達に自身の音楽性や表現力を再認識してもらいたい。そして、今まで知らなかった「新しい自分」に出会ってもらいたい。そのためにできることを、私たちは続けていきたいと思えます。TOA が伝えたいのは、子ども達の可能性。これまでも、これからも、TOA は音楽との素晴らしい出会いをサポートしていきます。

[専門学校・大学生] **プロの技を学ぶ**

匠 Workshop

[中学生～高校生] **プロへの道しるべ**

神戸 JAZZ

[中学生] **音楽を創る**

トライやる・ウィーク

[小学生～中学生] **音楽と出会う**

TOA Music Workshop



TOA  
Meet! Music!  
Concept

## TOA 社会貢献宣言

TOA グループは、社会から信頼される「良き企業市民」として、多様な社会問題の解決に向けた取組みを自発的に行い、社会に貢献します。自社資源を有効に活用し、本業である「音と映像」との関連性を強く意識した独自の活動を行うことで、社会と共に発展していく「かけがえのない企業」になることを目指します。

# 音楽を最も聴く 20代

## 「通勤・通学」では5割、 「家庭」では3割が 「ほとんど毎日聴く」 ひとりで音楽を聴くことが 多い人が8割をこえ、 パーソナル化の傾向が進む。

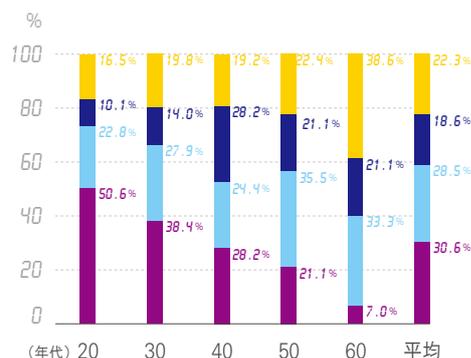
音楽を聴く手段は、20代は「携帯用音楽プレイヤー」「パソコン」  
50、60代は「テレビ」「ラジオ」が目立つ

通勤や通学時に音楽を「ほとんど毎日聴く」人は20代では半数を超え、年代が高くなるほど下がる傾向があった。家庭で音楽を「ほとんど毎日」聴く人も20代が最も高く3割にのぼっている。音楽は多感な年代、10代後半から20代前半で最もよく聴かれており、感情とのかかわりが密接だと推定される。音楽を聴く手段は年代とともに変化しており、50、60代では「テレビ」「ラジオ」が、20代では「携帯用音楽プレイヤー」「パソコン」が目立つ。音楽をひとりで聴くことが多い人が8割を超え、音楽との接し方はパーソナル化が進んでいる。

あなたは、通勤・通学の際に音楽を聴きますか。N=376

	20代	30代	40代	50代	60代	計	平均
ほとんど毎日聴く	40 50.6%	33 38.4%	22 28.2%	16 21.1%	4 7.0%	115	30.6%
時々聴く	18 22.8%	24 27.9%	19 24.4%	27 35.5%	19 33.3%	107	28.5%
あまり聴かない	8 10.1%	12 14.0%	22 28.2%	16 21.1%	12 21.1%	70	18.6%
まったく聴かない	13 16.5%	17 19.8%	15 19.2%	17 22.4%	22 38.6%	84	22.3%
計	79	86	78	76	57	376	

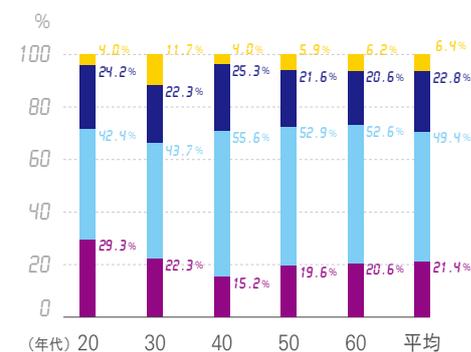
通勤・通学をしている人で、通勤・通学時に音楽を聴いている人の割合は若い人ほど高く20代では50%を超える。



あなたは、家庭で音楽を聴きますか。N=468

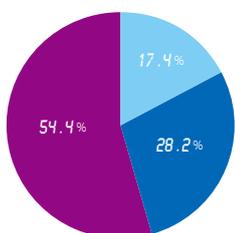
	20代	30代	40代	50代	60代	計	平均
ほとんど毎日聴く	29 29.3%	23 22.3%	15 15.2%	20 19.6%	20 20.6%	107	21.4%
時々聴く	42 42.4%	45 43.7%	55 55.6%	54 52.9%	51 52.6%	247	49.4%
あまり聴かない	24 24.2%	23 22.3%	25 25.3%	22 21.6%	20 20.6%	114	22.8%
まったく聴かない	4 4.0%	12 11.7%	4 4.0%	6 5.9%	6 6.2%	32	6.4%
計	99	103	99	102	97	500	

家庭でも音楽を聴いている頻度は若い年代ほど高く、20代では「ほとんど毎日聴く」人が約3割で、平均を大きく上回った。



あなたは、昔と比べて音楽を聴く  
時間は変わりましたか。N=500

昔より今の方が増えた	87	17.4%
昔と今とは変わっていない	141	28.2%
昔より今の方が減った	272	54.4%



それはなぜですか。(自由記入の抜粋)

### 以前より増えた理由

(iPod など) 携帯用音楽プレイヤーを買った  
(※若い人に多い)  
時間や心理的な余裕ができた  
(※年配の人に多い)  
心を癒すため

### 以前より減った理由

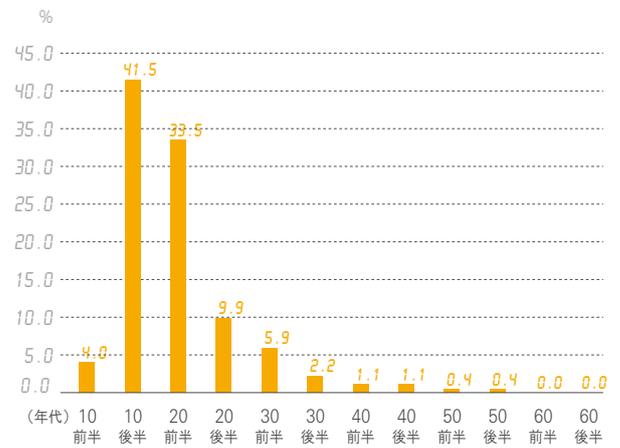
時間や心理的な余裕がなくなった  
物理的な理由(家族、住環境)  
他の楽しみができた(PC、テレビ)  
好きな曲が減った

(昔より今の方が減ったと答えた人に)

あなたが最もよく音楽を聴いていた年代はいつですか。N=272

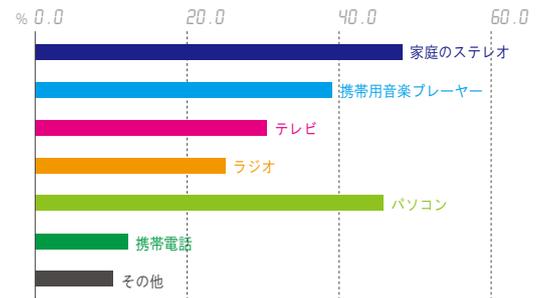
	10代		20代		30代		40代		50代		60代		
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
総数	272												
%	100.0%	4.0	41.5	33.5	9.9	5.9	2.2	1.1	1.1	0.4	0.4	0.0	0.0

7割以上が10代後半または20代前半と回答。  
多感な年代で最もよく音楽が聴かれている。



あなたは現在、何を使って音楽を聴いていますか。(年代別) N=476

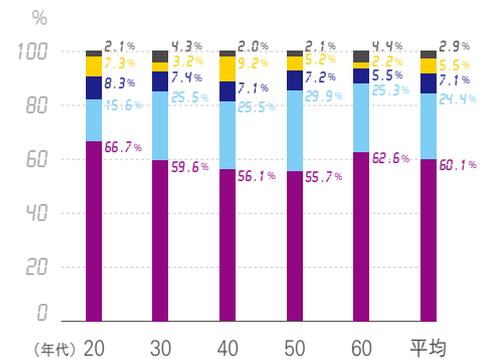
	20代		30代		40代		50代		60代		計	平均
家庭のステレオ	43	44.8%	43	45.7%	50	51.0%	47	48.5%	47	51.6%	230	48.3%
携帯用音楽プレーヤー	61	63.5%	31	33.0%	38	38.8%	32	33.0%	24	26.4%	186	39.1%
テレビ	26	27.1%	18	19.1%	26	26.5%	40	41.2%	35	38.5%	145	30.5%
ラジオ	11	11.5%	13	13.8%	25	25.5%	30	30.9%	40	44.0%	119	25.0%
パソコン	57	59.4%	44	46.8%	45	45.9%	38	39.2%	34	37.4%	218	45.8%
携帯電話	16	16.7%	10	10.6%	14	14.3%	15	15.5%	3	3.3%	58	12.2%
その他	8	8.3%	18	19.1%	11	11.2%	7	7.2%	5	5.5%	49	10.3%
	96		94		98		97		91		476	



音楽を聴く手段は20代は「携帯用音楽プレーヤー」「パソコン」、50、60代は「テレビ」「ラジオ」と答えた人が他の年代より多い。

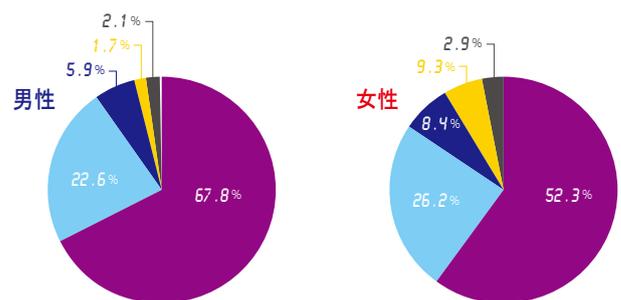
あなたは音楽を聴く時、ひとりで聴くことが多いですか、それとも誰かといっしょに聴くことが多いですか。(年代別) N=476

	20代		30代		40代		50代		60代		計	平均
ひとりで聴くことが多い	64	66.7%	56	59.6%	55	56.1%	54	55.7%	57	62.6%	286	60.1%
どちらかというひとりで聴くことが多い	15	15.6%	24	25.5%	25	25.5%	29	29.9%	23	25.3%	116	24.4%
どちらも同じくらい	8	8.3%	7	7.4%	7	7.1%	7	7.2%	5	5.5%	34	7.1%
どちらかという誰かと聞くことが多い	7	7.3%	3	3.2%	9	9.2%	5	5.2%	2	2.2%	26	5.5%
誰かと聞くことが多い	2	2.1%	4	4.3%	2	2.0%	2	2.1%	4	4.4%	14	2.9%
	96		94		98		97		91		476	



あなたは音楽を聴く時、ひとりで聴くことが多いですか、それとも誰かといっしょに聴くことが多いですか。(男女別) N=476

	男性	女性	計	平均		
ひとりで聴くことが多い	162	67.8%	124	52.3%	286	60.1%
どちらかというひとりで聴くことが多い	54	22.5%	62	26.2%	116	24.4%
どちらも同じくらい	14	5.9%	20	8.4%	34	7.1%
どちらかという誰かと聞くことが多い	4	1.7%	22	9.3%	26	5.5%
誰かと聞くことが多い	5	2.1%	9	3.8%	14	2.9%
	239	237	476			



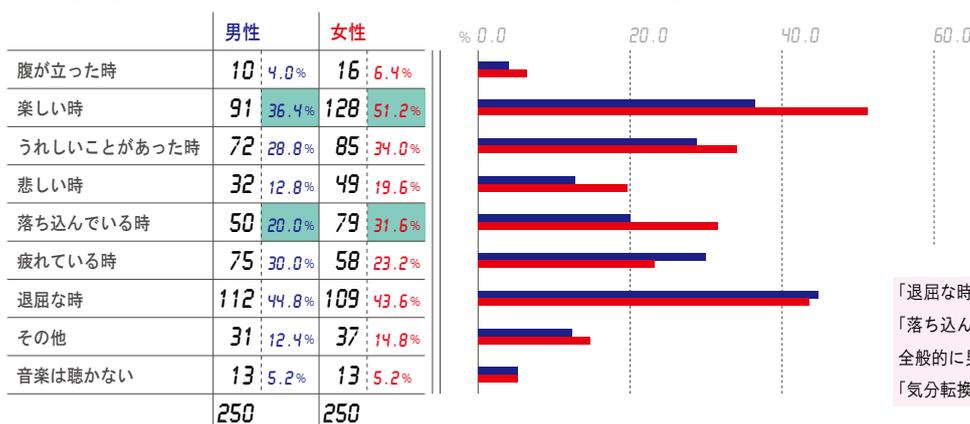
年代別では20代が1人で音楽を聴く割合が最も高く7割近くにのぼる。  
女性より男性の方が10ポイント以上高い。

# 女性の4割は「食事の準備」の時に歌を歌い、入浴中を上回る。 3人に1人が「歯磨き」や「着替え」など子どものしつけに歌を活用。

感情に働きかける歌の効果で、家事をする意欲、子どものやる気を引き出す

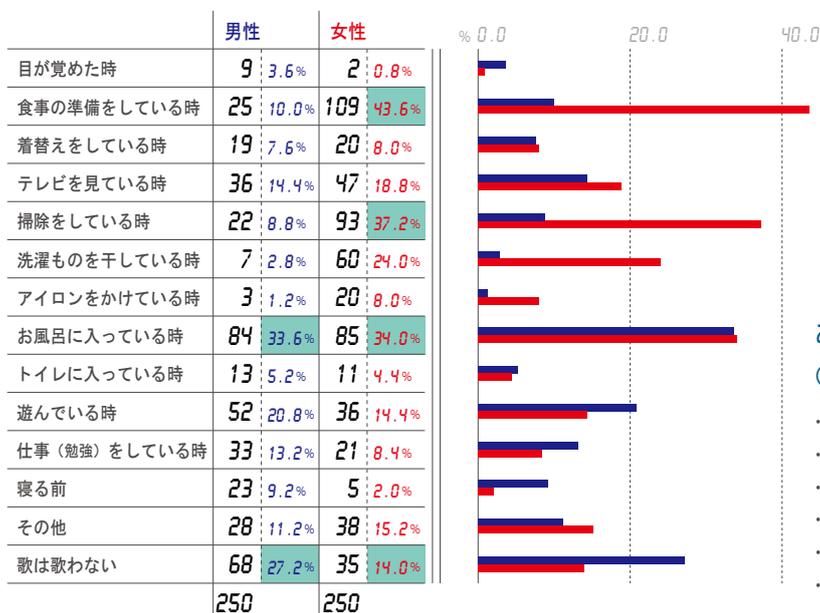
女性が家庭で最も音楽をよく歌うシーンは、「入浴中」を「食事の準備」「掃除中」が上まわり、その理由として「家事が楽しくなる」「仕事のはかどる」「時間が短く感じる」との声が目立った。歌は子どものしつけにも活用されており、「歯磨き」では4割近く、「着替え」では3割以上にのぼる。家事やしつけに歌を取り入れることで、作業を行う気分を前向きにしたり、気持ちをリラックスさせるなど、感情をうまくコントロールするために歌を取り入れていることがわかった。

あなたはどんな気分の時によく音楽を聴きますか。(複数回答) N=500



「退屈な時」だけでなく、「楽しい」「うれしい」というプラスの気分の時や「落ち込んでいる」などマイナスの気分の時にも音楽がよく聴かれている。一般的に男性よりも女性の方が気分に合わせて音楽を聴く傾向があり、「気分転換」や「気分の促進」にうまく音楽を活用しているといえる。

あなたは家庭でどんな時に歌を歌い〈口ずさみ〉ますか。(複数回答) N=500



女性はお風呂に入っている時よりも、食事の準備、掃除をしている時の方が歌を歌うことが多く、食事の準備をしている時に歌を歌う(口ずさむ)人は4割を超えている。歌を歌わない人の割合は男性が女性の倍にのぼる。

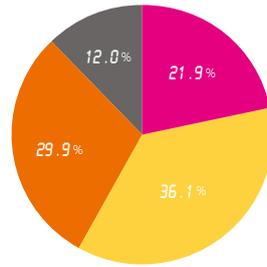
## あなたはなぜその時に歌が歌いたくなるのだと思いますか。

(自由記入の一部をそのまま引用)

- ・食事の用意を楽しくやりたいから(60代女性)
- ・気持ちよいから。仕事のはかどるから(40代女性)
- ・歌うことで時間経過を短く感じることができるから(40代女性)
- ・掃除をしている時や料理をしている時はテンションが上がってやる気ができる(20代女性)
- ・体を動かす時にテンポが良くなるし、軽く動けそうな気がするから(40代女性)
- ・黙って手を動かすのも寂しいから(20代男性)

あなたは子どものしつけや教育のために、歌を歌ったり、リズムをつけて呼びかけたりしたことはありますか。N=324

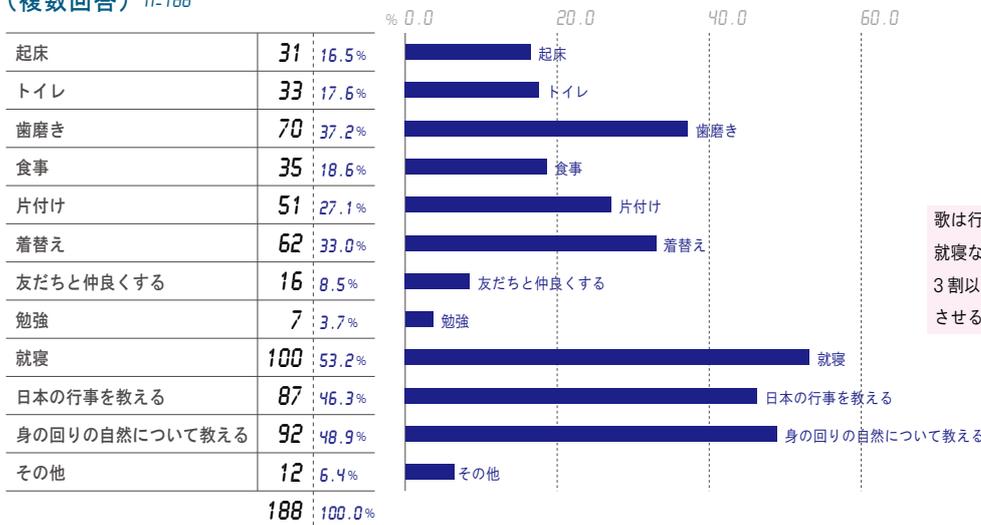
よくある	71	21.9%
時々ある	117	36.1%
あまりない	97	29.9%
まったくない	39	12.0%
	324	100.0%



子どものしつけや教育のために歌を活用したことがある人は6割にのぼる。

どんなしつけや教育のために歌を活用しました(しています)か。

(複数回答) N=188

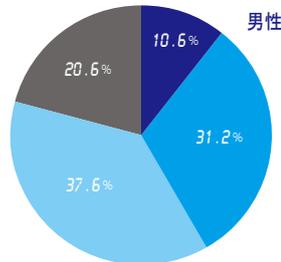


歌は行事や自然を教える教育としてだけでなく歯磨きや着替え、就寝などのしつけにも活用されている。「歯磨き」や「着替え」では3割以上にのぼり、嫌がる子どもに楽しみながら着替えや歯磨きをさせるための工夫として歌が活用されているようだ。

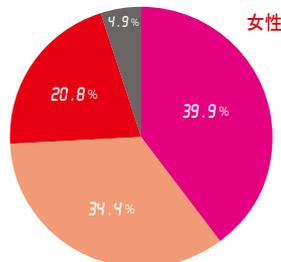
あなたは子守唄を歌ったことがありますか。

(男女別) N=324

	男性	女性
よくある	15 10.6%	73 39.9%
時々ある	44 31.2%	63 34.4%
あまりない	53 37.6%	38 20.8%
まったくない	29 20.6%	9 4.9%
	141 100.0%	183 100.0%

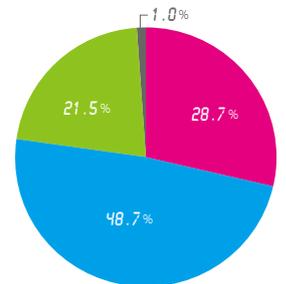


子守唄を歌ったことが「よく」「時々」ある人は男性は4割にとどまるが女性は7割を超える。歌は子どもとの重要なコミュニケーション手段であり、寝かしつけの際の親子のリラックス方法として活用されていることが推定される。



子守唄には眠りを誘う効果はありましたか。N=195

よくあった	56	28.7%
時々あった	95	48.7%
あまりなかった	42	21.5%
まったくなかった	2	1.0%
	195	100.0%



子守唄に眠りを誘う効果が「よくあった」「時々あった」と答えた人は約8割。

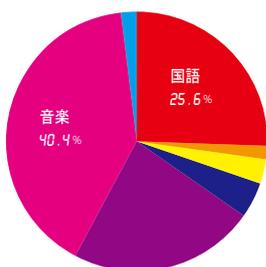
# 子どもが生きていく上で 最も必要な力は「心の豊かさ」 が5割を超える。 昨年引き続き、 「コミュニケーション力」も 上位に。

## 「心の豊かさ」を育てることに役立つ 教科は「音楽」が約4割でトップ

子どもが生きていく上でどんな力が必要だと思うかを親に尋ねたところ、2年連続で「心の豊かさ」が5割を超えトップになり、回答率も昨年と比べて2ポイント高まった。心の豊かさ育てることにもっとも役立つと思う科目は「音楽」が最も高く、「国語」と「図工・美術」が続いた。次に高かったのは「コミュニケーション力」でこの2つの答えが他を引き離れた。伸び率が最も高かったのは「繊細な感受性」で、厳しい景気環境の中、「スキル」よりも「心の持ち方」を重視する傾向が高まった。

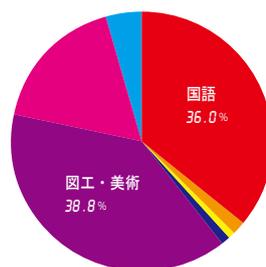
心の豊かさ育てることにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか。N=500

国語	128	25.6%
算数・数学	9	1.8%
理科	15	3.0%
社会	22	4.4%
図工・美術	115	23.0%
音楽	202	40.4%
外国語	9	1.8%
全体	500	100.0%



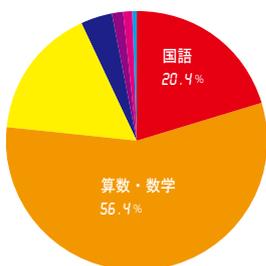
表現する力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか。N=500

国語	180	36.0%
算数・数学	8	1.6%
理科	5	1.0%
社会	5	1.0%
図工・美術	194	38.8%
音楽	87	17.4%
外国語	21	4.2%
全体	500	100.0%



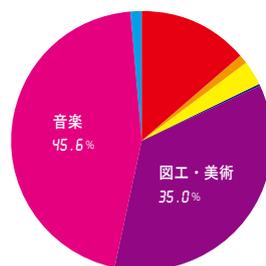
論理的に物事を考える力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか。N=500

国語	102	20.4%
算数・数学	282	56.4%
理科	82	16.4%
社会	19	3.8%
図工・美術	8	1.6%
音楽	5	1.0%
外国語	2	0.4%
全体	500	100.0%



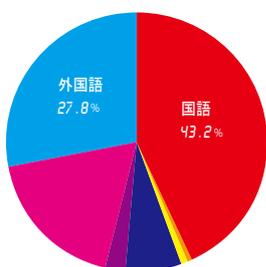
繊細な感受性を育てるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか。N=500

国語	68	13.6%
算数・数学	6	1.2%
理科	15	3.0%
社会	2	0.4%
図工・美術	175	35.0%
音楽	228	45.6%
外国語	6	1.2%
全体	500	100.0%



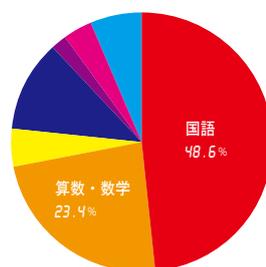
人とコミュニケーションする能力を高めるのに  
もっとも役立つのは、どの科目だと思いますか。N=500

国語	216	43.2%
算数・数学	3	0.6%
理科	4	0.8%
社会	35	7.0%
図工・美術	12	2.4%
音楽	91	18.2%
外国語	139	27.8%
全体	500	100.0%



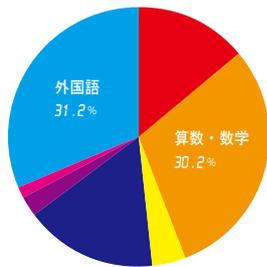
総合的な学力を高めるためにもっとも役立つのは、  
どの科目だと思いますか。N=500

国語	243	48.6%
算数・数学	117	23.4%
理科	24	4.8%
社会	57	11.4%
図工・美術	9	1.8%
音楽	19	3.8%
外国語	31	6.2%
全体	500	100.0%



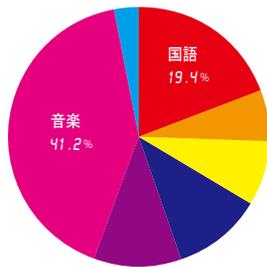
競争社会を生き抜くためにもっとも役立つのは、  
どの科目だと思いますか。N=500

国語	70	14.0%
算数・数学	151	30.2%
理科	22	4.4%
社会	82	16.4%
図工・美術	12	2.4%
音楽	7	1.4%
外国語	156	31.2%
全体	500	100.0%



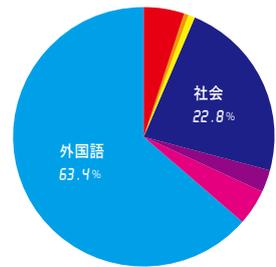
日々の生活を楽しく暮らすのもっとも役立つのは、  
どの科目だと思いますか。N=500

国語	97	19.4%
算数・数学	32	6.4%
理科	40	8.0%
社会	55	11.0%
図工・美術	55	11.0%
音楽	206	41.2%
外国語	15	3.0%
全体	500	100.0%



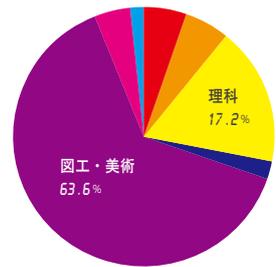
異文化を理解する力を身につけるのもっとも  
役立つのは、どの科目だと思いますか。N=500

国語	25	5.0%
算数・数学	4	0.8%
理科	3	0.6%
社会	114	22.8%
図工・美術	15	3.0%
音楽	22	4.4%
外国語	317	63.4%
全体	500	100.0%



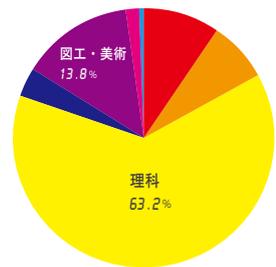
自分の力で新しいものを創りだす力を身につけるのに  
もっとも役立つのは、どの科目だと思いますか。N=500

国語	27	5.4%
算数・数学	28	5.6%
理科	86	17.2%
社会	11	2.2%
図工・美術	318	63.6%
音楽	22	4.4%
外国語	8	1.6%
全体	500	100.0%



注意深い観察力を養うのもっとも役立つのは、  
どの科目だと思いますか。N=500

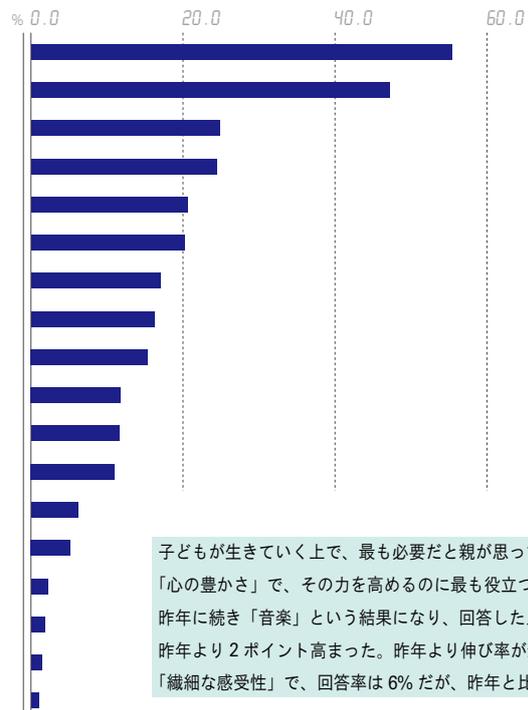
国語	48	9.6%
算数・数学	38	7.6%
理科	316	63.2%
社会	18	3.6%
図工・美術	69	13.8%
音楽	9	1.8%
外国語	2	0.4%
全体	500	100.0%



子どもが生きていくうえで、どんな力が必要だと思いますか。

(3つまで) N=500 ※空欄は該当する質問項目なし

順位	複数回答	N	%	昨年%	その力を養うことができると思う科目		
					1位	2位	3位
1	心の豊かさ	277	55.4%	53.0%	音楽	国語	図工・美術
2	コミュニケーション力	236	47.2%	50.6%	国語	外国語	音楽
3	協調性	124	24.8%	22.4%			
4	表現する力	122	24.4%	23.4%	図工・美術	国語	音楽
5	論理的に物事を考える力	103	20.6%	19.4%	算数・数学	国語	理科
6	粘り強さ	101	20.2%	19.0%			
7	行動力	85	17.0%	20.2%			
8	明るさ	81	16.2%	15.4%	音楽	国語	図工・美術
9	自由な想像力	77	15.4%	17.0%	図工・美術	理科	算数・数学
10	気持ちのゆとり	59	11.8%	14.8%			
11	強い信念	58	11.6%	14.6%			
12	他人への共感	55	11.0%	8.8%	理科	図工・美術	国語
13	繊細な感受性	31	6.2%	2.2%	音楽	図工・美術	国語
14	躍動的な生命力	26	5.2%	4.0%			
15	異文化への理解	11	2.2%	2.4%	外国語	社会	国語
16	高収入	9	1.8%	3.4%	外国語	算数・数学	社会
17	高学歴	7	1.4%	1.0%	国語	算数・数学	社会
18	その他	5	1.0%	1.4%			
	全体	500	100.0%	100.0%			



子どもが生きていく上で、最も必要だと親が思っている力は「心の豊かさ」で、その力を高めるのに最も役立つのは昨年続き「音楽」という結果になり、回答した人の割合も昨年より2ポイント高まった。昨年より伸び率が最も高かったのは「繊細な感受性」で、回答率は6%だが、昨年と比べて約3倍になった。

## 共感する力を育む — 調査結果によせて —

NPO 法人 子どもとアーティストの出会い

理事長：井手上春香

### 暮らしの中の音楽

私たちの生活は、音楽と密接に関わっています。「家事をしながら歌う」ことにより作業に“楽しさ”を付加し、また、落ち込みたいときに音楽を聴いてより深い感情に“浸る”。調査結果に現れたのは、気分転換や気分促進に、音楽を実に巧みに用いている私たちの生活スタイルでした。また、幼少期における親子間のコミュニケーションとも、音楽は密接に関わっています。

「着替えの歌」や「歯磨きの歌」など、特定の行為と音楽を結びつけて抵抗感を払拭し、生活手法の学びを促進する。私たちは、音楽の効果を知り、それを意識的に活用することで、生活をより豊かなものに行っているとと言えます。

### ひとりで音楽を聴く若者たち

一方で、特に 20 代を中心とした若年層において、音楽を聴く行為がパーソナル化している傾向が明らかになりました。これは、携帯用音楽プレーヤーや音楽配信の普及によって、音楽がより手軽で身近になったことに大きく起因しています。言い換えれば、無数にある楽曲の中から自分の好きな曲だけを選び、一人で聴くための環境が用意されたのだと言えます。

あわせて 2007 年度の調査によれば、10 代～20 代の若者の大部分が、日本のポップス音楽（J-POP）を好む結果が出ています。暮らしの中で音楽を様々な活かし、音楽で親子のコミュニケーションを行っていたはずの子ども達が、なぜ「J-POP を一人で聴く」ことを好むようになっていくのでしょうか。この現象を、「共感」というキーワードから推察することができます。ストレートな日本語の歌詞をメロディにのせて歌う J-POP。そこに込められたメッセージに、若者が“自分自身の代弁”として「共感」を抱くことは容易に想像できます。しかし、仮にその行為が、生身の他者との「共感」の代替として、自分が共感できる楽曲を予め用意された選択肢から選ぶことに特化しているのであれば、憂慮すべきことだと言わざるを得ません。

### 生身の他者との共感

生身の他者との「共感」とは、自分自身を表現し、また他人の表現と向き合うことで初めて成り立つ行為であり、決して容易なことではありません。しかし、「共感」するために創意工夫し、「共感」できない葛藤を経てコミュニケーション力を養うことは、子ども達にとって重要な学びとなります。また、共感とは、決して言語によるコミュニケーションだけで成り立つものではなく、むしろ表情や声といった言語外のコミュニケーション要素によって、大きく左右されるものです。国際化・多様化が急速に進む現代社会において、こうした言語外のコミュニケーション力を養うことは、必要不可欠と言えます。

### 音楽が育む「生きる力」

2008 年度の調査では、「コミュニケーション力」を養う科目として、語学と並び「音楽」が上位となりました。これは、保護者が言語外の要素に着目していることを示しています。同時に「生きる力」として重視する「心の豊かさ」を育む科目としても「音楽」に着目しており、2009 年度の継続調査では、この傾向がより強まる結果となりました。加えて、「繊細な感受性」「他人への共感」など、他者との関係性に関する項目が伸びる結果となったのも今年の特徴です。劇的な環境変化に直面し、子ども達が厳しい時代を乗り切るための「心のあり方」に、保護者の関心が集まりつつあると言えます。音楽が育む「生きる力」を活用し、多様な価値観を持つ生身の他者と「共感」していく力を育む。そのための新しい教育の機会が求められています。

TOA Music Workshop 2009

# こころのリズム、 カラダのきもち

新しい自分, 発見。無料ワークショップ参加校募集!

## 韓国伝統打楽器のチャンゴと、ふたりのダンサーによる 音楽ワークショップ、開催!

ひとりひとり違うリズム。ひとりひとり違う表現。  
まったく違う個性をもった子どもたち、  
他の人とは違ってあたりまえ。  
子どもたち 100 人には、100 通りの音楽があります。  
勇気をだして自由に表現すれば、子どもたちの音楽は、  
こんなにも素晴らしい。  
それは今まで、子どもたち自身も知らなかったこと。  
音楽を通じて、新しい自分自身にきっと出会える。

「音楽で心を解放し」「感じたことを身体で  
表現するとともに、他者の表現を知ること」、  
「非日常空間で、即興のリズムや動きから自由に  
新しい音楽をつくりだすこと」をテーマに、  
音楽ワークショップを実施します。子どもたち  
ひとりひとりの感性を引き出し、音楽に触れる  
喜び・表現する楽しさを体験して頂きます。  
皆様のご参加、お待ちしております。

主催 TOA 株式会社

企画制作 NPO 法人 子どもとアーティストの出会い  
株式会社ジーベック

日程 2009年9月～2010年3月までの期間で調整の上確定

参加費無料

時間 2時間程度

対象 小学校3年生～中学生

参加人数 各回200名以内

会場 ジーベックホール（神戸市中央区港島中町7-2-1）

または参加校校内施設

ジーベックホールへご来場いただいたのワークショップか、  
参加校内での出張ワークショップかを、選択いただけます。  
ジーベックホールにご来場いただく場合の交通費などは、  
参加者負担となります

募集校 3校

※人数によっては複数校共同開催も可

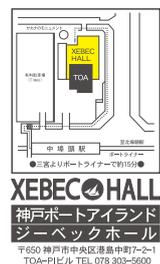
※来場可能であれば、学校所在地は問わず

※出張ワークショップの場合は、関西圏の学校に限る

アーティスト

高庚範 [チャンゴ奏者]

隅地茉歩+阿比留修一 (セレノグラフィカ) [コンテンポラリーダンス]



# こころのリズム、 カラダのきもち

新しい自分、発見。無料ワークショップ参加校募集！

韓国伝統打楽器のチャングのリズムをベースに、ふたりのコンテンポラリーダンサーによる音楽ワークショップを行います。ダンサーのリードにより、子どもたちが自由に身体を動かし、リズムをつ身体で表現することを体験します。ワークショップの最終段階では、音響・照明等の演出を加え、非日常感の中で「即興ライブパフォーマンス」として表現します。

コンテンポラリーダンスとは、型や形式にとらわれない、自由な動き・発想からつくられるダンスのこと。

※ 他校の教員や音楽関係者の見学、メディアによる取材が可能な、公開ワークショップとさせていただきます。



高 庚範



撮影：川上 坐

隅地 茉歩 + 阿比留 修一

## アーティストプロフィール

**高 庚範** コウ・キョンボン

チャング奏者

1998年、韓国伝統打楽器グループ「Shifa」を結成後、様々なイベントに出演。2002年、韓国伝統音楽をベースとしたユニットチーム「SANTA」に参加。国内外で活動を行う。また、大阪韓国文化院主催『2008 大阪府教職員研修』で伝統音楽担当講師をつとめるなど、韓国伝統音楽を広めるワークショップ等を精力的に行う。

[http://music.geocities.jp/osaka\\_chango/](http://music.geocities.jp/osaka_chango/)

**隅地 茉歩 + 阿比留 修一** すみじ・まほ + あびる・しゅういち

セレノグラフィカ || コンテンポラリーダンサー

1997年結成。なにげない動きを散りばめ、多様な解釈を導き出す不思議で印象的な作品が持ち味。

近年は幅広いジャンルの表現者とのコラボレーションを通し、デュエットの枠を超えた創作を展開している。

国内外のダンス公演、アウトリーチ活動、一般・子ども向けワークショップ活動多数。

<http://www.selenographica.net/>

### 申込方法

お申込みご希望の方は必要事項（学校名、学年、参加人数、希望時期、学校住所、担当者名、電話、Fax、e-mail）をご記入の上、郵送・FAXまたはe-mailにてお申込みください。

- ・申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。
- ・希望時期は目安の日程を第2希望までご記入ください。ご参加頂けることが決定した段階で、調整の上確定させていただきます。
- ・参加学校施設内でワークショップを実施する場合は、開始時間の約2時間前より、使用会場にて機材等のセッティングをさせていただきます。また、ワークショップ終了後、現状復帰に30分～1時間程度かかります。

**申込締切 || 2009年5月29日 金曜日**

### お申込み・お問い合わせ先

NPO 法人子どもとアーティストの出会い

担当：井手上春香

〒604 8222 京都市中京区観音堂町 466 みやこ3階

電話番号 || 090-6731-8598

ファクシミリ || 075-231-8607

e-mail || [info@npo-kad.com](mailto:info@npo-kad.com)



### TOA 音楽と教育の意識調査 2009

主催 || TOA 株式会社

監修 || NPO 法人子どもとアーティストの出会い

調査設計 || NPO 法人 recip

協力 || NPO 法人アート NPO リンク

印刷 || 株式会社エスコアハーツ

発行 || 株式会社 PR リンク

発行日 || 2009年4月

### 本冊子についてのお問合せ先

NPO 法人子どもとアーティストの出会い

〒604 8222 京都市中京区観音堂町 466 みやこ3階

電話番号 || 090-6731-8598

ファクシミリ || 075-231-8607

e-mail || [info@npo-kad.com](mailto:info@npo-kad.com)

担当 || 井手上春香

## TOA Music Workshop の歩み

### 2005 || 小中学生のための“リズムと身体表現” ||

参加アーティスト | 金子雄生 || トランペット奏者、民族音楽家

実施日程 | 2005年9月9日、10月26、27日、11月10、11日、2006年2月15日

参加者数 | 計 358名

### 2006 || ぼくを鳴らそう、わたしを聴こう ||

参加アーティスト | 高岡大祐 || チューバ奏者、音楽家

| 櫻井響 || ヒューマン・ビート・ボックス

実施日 | 2006年9月15日、11月9日、11月15日、12月13日

参加者数 | 計 400名

### 2007 || もっとひらいて！もっとはずんで！ ||

参加アーティスト | HANA★JOSS || ジャワガムランユニット

| UOOMOO || 民族楽器ユニット

実施日 | 2007年11月5日、2008年1月22日、3月4日

参加者数 | 計 234名

### 2008 || もっとひらいて！もっとはずんで！ ||

参加アーティスト | HANA★JOSS || ジャワガムランユニット

| UOOMOO || 民族楽器ユニット

実施日 | 2008年11月5日、11月6日、12月12日

参加者数 | 計 517名